

ぶどうの房が丸くなる

近頃、大粒系ぶどうの房が丸くなった
と思いませんか。

大粒系の美味しいぶどうが増えていま
す。巨峰、ピオーネ、藤稔。甘くて、大
きな粒がぎゅっと詰まって、ずんぐりし
た四百グラムから五百グラムのぶどうが
店頭に並んでいます。

でも、ぶどうは以前、スラット細長く、
三角形の形をしていませんでしたか。
なぜ、大粒系のぶどうがずんぐりしてき
たのでしょうか。

それは、ぶどう農家にも省力化や標準
作業といった、作業管理が導入されてい
るからです。

ぶどう栽培は、稲作のように機械化が
できません。機械と言えば、薬剤散布の
噴霧機、草刈機や枝を結ぶ結束器程度で、
ほとんどが手作業です。

ピオーネの房作りを例に作業手順を見
てみましょう。五月中旬、蕾が大きくな
ってきます。藤の花を小さくしたような
長い房ができます。開花一週間前、蕾を
先端から三・五センチから四センチの長
さにします。花が咲くと開花から数日の
間に、種無し処理のため一回目のホルモ
ン処理を行います。ホルモン処理から十
日から十五日後、粒が大豆くらいになっ
たとき二回目のホルモン処理を行い、粒
の肥大化を図ります。この間、五百グラ
ムの房ですと、粒の数がピオーネで三十
五粒から四十粒になるように粒間引きを
します。

この粒間引き作業が大変なのです。粒
が小さい時に最終仕上がりを予測して、

小さい粒や形の悪い粒、そして込み合
っている部分の粒を取り除き、房作りを
します。しかし農業は自然が相手、粒の
肥大期に雨が多いと、想定以上に粒が大
きくなり、粒と粒が押し合い、房から剥
がれたり、粒が裂けたりします。逆に雨
が少ないと、小粒となり隙間の多いゆる
ゆるの房になります。このため粒が大き
くなるのに合わせ、少しずつ粒間引きを
します。しかしこの手順ですと、粒間引
きに掛かりつきりになってしまいます。

そこで篤農家が考えました。蕾の長さ
を三センチに統一する。一回目のホルモ
ン処理の後、蕾の先端をカットする。こ
の時点で軸の長さが五センチ、粒の数を
三十五〜四十粒にして、それより多いと
房の上側で粒をカットする。こうすると、
房の上と下が空きますが、粒の肥大に伴
って粒が押され上下の隙間が埋まってい
きます。こうすることにより、粒間引き
に要する時間が半分になったという報告
もされており、栽培面積が増え、品質が
向上したとの効果が出ています。

- ・ 蕾の長さを三センチにする。
- ・ 粒の数を三十五〜四十粒にする。
- ・ 房の上下をカットする。

この三つの作業を標準化することで五
百グラム前後の房があまり手を掛けるこ
となく、十アール当たり一・五トンの収
穫が無理なくできるようになったのです。
これだけで、ぶどうは栽培できません
が、農家も日々の仕事の改善を行いな
がら、価格の下落に、作業効率のアップに
よる人件費節減や栽培面積の拡大、品質
向上、秀品率のアップで対処しているの
です。